

平成 30 年度 第 2 回羽曳野市立図書館協議会会議録（要録）

日 時： 平成 31 年 2 月 21 日(木) 午後 1 時 30 分～午後 2 時 40 分

場 所： LIC はびきの 教育研究所会議室

出席者：(委員) 岸下委員、上野委員、脇谷委員、平井委員、渡辺委員、小澤委員、山下委員
菅谷委員、瀬戸口委員

(教育委員会) 高崎教育長

(事務局) 堀田課長、奥野館長、安東課長補佐、岩佐主幹、江夏主幹

欠席者： 南野委員

傍聴者： 3 人

●開会

教育長挨拶

(教育長 公務のため退席)

●議事

事務局より、議事録の要録を WEB 及び中央図書館で紙ベースで公開することを報告
会長挨拶

議題 平成 31 年度事業計画（案）について

事務局：(事業計画案を配布資料に基づき説明)

会長：何かご意見はないか。

委員：あまり代わり映えしていない。図書館は生き残るために発想の転換など危機意識が必要ではないか。読書人口は減っていくと思われる。そのときに図書館はどんな役割を果たせるかを考えて運営していかなければならない。人が来てくれないとサービスを維持できなくなる恐れもある。利用者はどういう層で、どんな本を見ているか、来ていない人はどういう人か、を分析し、それに対してどうするか戦略を立てる必要がある。これを意識して事業計画をたててほしい。羽曳野は人的に職員が少なく厳しい面があるが、若い職員を採用してそういう力を入れないと先細りする。児童だけでなく高齢者に来てもらうためには何が必要かなど考えてもらいたい。国会図書館のデジタルサービスも結構なことだが誰が利用する人がいるかという話もあると思う。

会長：いかがか。どなたか具体的にいい案はないか。

委員：(事業計画に) 記載のある金原氏の講演会を図書館と子ども文庫連絡会との共催で行う。私たちの団体は小学生以下を対象とする活動だが、講演会では 10 代の人に目をむけるもの。講演会をしても来るメンバーが決まってくる。どうすれば 10 代の人に来てもらえるか話し合っている。図書館でこれをふくらませた事業を考えてもらえたらと思う。いつも来ない人にどうしたら来てもらえるか考え中。

委員：図書館から小学校に長期で貸出してもらっていてありがたい。(児童数が) 多人数で学校図書館だけではまかなえないので配本してもらいたい。お話をしてもらおう・本の紹介をしてもらおうボランティアにも来ていただいている。さらに市から援助をいただき子どもに生涯にわたり興味付けできればありがたい。

委員：おはなしボランティアはびきのでは高齢者に対しておはなし会をしている。民話・昔話は受入れてもらえるが現代的なものは…。朗読ボランティアにも来ていただけたらとも思うが、朗読ボランティアが読んでいる本とおはなし会で必要とする本は少し差があるように思う。図書館でとりまとめていただけるのかという思いはある。高齢者が図書館に足を運ぶには交通の便が必要。図書館でなにかできないか。コミセンを管理しているのは別（の組織）で食い違いが起こっているのではないか。

事務局：コミセン内の図書館はみのりの里に業務委託をしています。中央図書館とやりとりしながら各館独自で行事などを考えてもらっています。

会長：コミセンの職員は図書館の人数には入っていないのか。

事務局：みのりの里で人員配置して運営していただいています。

委員：朗読ボランティアではリスナーの年齢が上がっている。対面朗読は一人が対象だが、複数人で一緒に聞いていただけないのか。

事務局：対面朗読は複数人を相手にというものではありません。

委員：（録音図書の）CDがあるなら視覚障害者以外でも聞きたい人はいると思う。

事務局：障害者サービスとして本を音声化した録音図書を利用できる場合の対象者は絞られます。別に、市販されている朗読CDがあり、これは誰でも利用してもらえるので、図書館でも増やす努力をしています。

委員：そういうのがあることを知らない人がいるので宣伝してもらったらいと思う。

事務局：以前、大活字本を増やしているとお話をさせていただきましたが、録音図書もPRを考えていきたい。

委員：子ども対象の事業と高齢者対象の事業が焦点だと思う。子どもたちの読書時間が少なくなっていることが29年度の学力テストの結果でも表れている。羽曳野市の中学生の読書時間は大阪府の平均より極端に少なく、スマホを使っている時間が長い。テレビの報道では、スマホの使用は認知に影響があり脳に弊害があるとのことだ。大阪府では学校にスマホの持ち込みを認める報道があった。子どもたちがスマホとどうつきあっていくかは今後の大きな課題であり、教育委員会全体で深く考えていただきたいと思う。高齢者では介護予防が重要であり、本を読む行為は介護予防、という観点からの戦略を考えていただくことを図書館から提案していただけたらと思う。

会長：スマートフォンのことで何かないか。

委員：幼稚園で見ていると、スマホに2〜3歳頃からさわっている状況。保護者に読書や親子のかかわりの大切さを日頃言っているが、お母さん方は忙しいのか、子守をスマホに手伝ってもらっているように見受けられる。

読書活動を広めたいとがんばっている。子ども文庫におはなし会に来てもらったり、高鷲南校区で読書活動週間を作ったりしている。その中で読書に親しむ時間を持つという活動をしているが、本を借りた子どもが自分（ひとり）で読んでいて、家の人とかかわって読んでいないことが課題だと思う。保護者の子どもとのかかわりの意識を変えていかないといけないと思う。読み聞かせによって何が子どもたちの成長につながっていくかを啓発することが効果的かなと考えている。積み重ねていきたい。

ニュースで書店が電子書籍を呼びかける活動をしているとの報道があった。羽曳野市にもそういう話がくると思うがどういうふうに考えているのかと思った。

委員：小学校でもスマホの所持率は上がってきている。今のところトラブルはない。朝の読書タイムを取っていて、図書館や学校図書館の本を使っている。読書は文字で想像力をふくらませるの

に効果があると思う。

委員：個人的にはスマホのことは切り離して考えたほうがいいのかもと思う。家庭で買い与えるものなので学校や図書館ではどうしようもない。

会長：ひととおりの意見をいただいた。図書館からは何かないか。

事務局：デジタル図書は将来的に環境など必要になるかと思います。国会図書館のデジタル資料はネット環境があれば家庭でも見られるものもあります。今できることをやっていきたい。子どもについては本を読む習慣を身につけることが大事であるし、高齢者については来館していただいでゆっくり利用していただけるように考えていきたい。

委員：国会図書館のデジタル資料の利用者は現実的にどれくらいと見込んでいるのか。導入するのはいいことだが、もう少し危機感をもっていたきたい。児童サービスも大事だ。一方、今の図書館の状況を見たら、何のために図書館があるのか、図書館がどういう役割を果たせるのか、を考えてほしい。最近言われるのは「地域の居場所」ということ。例えば、認知症の人に対してどういうはたらきができるか。昔のものを集めて触れるとか昔の歌を歌うとか、市民が豊かに生きることを応援するのが図書館だと言われる。なかなか図書館に行けない、などアクセスの話もあったが、行けないなら図書館から出かけていくことも考えてほしい。何がなんでも本を読ませるのではなくて、活字だけでなく（ここにたまたま『くらべる東西』という本があるが、）写真と説明を見て刺激を受ける・楽しめる本がたくさんあるのでそういうものを使い、地域の人を楽しめる居場所となるようなことも考えてほしい。いま図書館に来ていない層に対して何か踏み出してもらえないか。子どもへのサービスは前からしっかりやっていることは理解している。

委員：事業計画にある第3次子ども読書活動推進計画は誰が策定するのか。

事務局：子ども読書活動推進委員会で策定を進めます。図書館協議会の代表にも入っていただきたい。

委員：その委員会で第2次計画の検証をするということか。

事務局：そこで検証しながら次の計画に活かします。

委員：図書館協議会では検証しなくて、推進委員会が行うということになるのか。

事務局：そうなります。図書館協議会では進捗状況を次回の会議でお話しさせていただきます。

委員：その中で先ほどの委員の提案も考えていただくものとして期待する。スケジュールはどうか。

事務局：7月に委員会を立ち上げ、秋には素案作成、翌年1月に最終案という段取りを考えています。図書館協議会の委員が5月で満了となり、次の開催の6月中旬に代表を決めて推進委員会に入ってくださいと考えています。

委員：委員会はどれくらいの回数を予定しているか。

事務局：予定では3回を計画しています。

委員：その他のことでもいいか。この時期なので、来年度の図書費の予算の見通しはどうか。

事務局：議会の議決前ということでお聞きいただきたい。厳しい財政状況で全庁的に一定率の削減を求められています。図書費・雑誌費とも現在より若干の削減にならざるを得ない状況です。

会長：他にないか。本日の会議はこれで終わります。

●閉会